

2018年6月29日

中間発表骨子

2018年5月6日アミノバイタルフィールドで開催された日本大学保健体育審議会アメリカンフットボール部と関西学院大学体育会アメリカンフットボール部との定期戦において、関学大の最初の攻撃の第1プレー直後に、日大ディフェンスの選手が、関学大クォーターバックの選手に対し、ルールを逸脱した極めて危険なタックルを行い、関学大選手を負傷させた。

このタックルは、内田正人氏と井上奨氏の指示で行われたものである。

内田氏と井上氏の指示は、相手校である関学大アメフト部及び関学大選手に対するリスペクトを全く欠くものであり、スポーツマンシップからかけ離れたものである。両者は、指導者としての資質を著しく欠いていると言わざるを得ない。

また、内田氏は、試合直後のハドルや記者会見では、自らの責任を認めるような発言をする一方、その後の事情聴取に対しては、態度を一変させ、井上氏とともに、不自然な弁解を繰り返し、自らの責任を免れ選手に責任を押しつけようとしている。両者のその姿勢も、極めて悪質である。

なお、本件発生後、一部の日大関係者により、当該選手に責任を押し付け、監督コーチの指示はなかったことにしようとする不当な介入が行われたことが明らかになっている。このことは、事後対応上の問題点として看過できない事実であり、今後、日大のガバナンスの在り方を検討する上で十分勘案していかなければならない。

日大アメフト部の再建は、内田氏、井上氏はむろん、不当な介入を行った日大関係者の影響力が完全に排除された状態で行われなければならない。

日大が行っているアメフト部の監督公募については、外部の方を交えた公平公正な選考委員会を設け、選手、父母会、OBの方々の声も反映させながら、透明感を持って選考手続が進められることを望む。当委員会は、そのような手続を経た上で、内田氏の指導方針を根本的に改め、反則行為を明確に否定し、教育的観点をもって指導を行える方であるとともに、選手はもちろん、父母会、OBの方々、他大学の監督、関東学生アメリカンフットボール連盟等の多くが納得できる適切な方が指導者に選定され、その指導者の下で、内田氏の影響力を完全に遮断したコーチ陣が新たに編成され、日大アメフト部が再建の一步を踏み出すことを期待するものである。

日本大学アメリカンフットボール部における反則行為に係る第三者委員会
(略称 日大アメフト部第三者委員会)